

将来計画委員会議事録（2019年3月）

日時：2019年3月27日（水） 15時～17時

場所：八重洲倶楽部 第7会議室

出席者：イリエシュ ラウレアン（理化学研究所），佐藤 隆章（慶応大学），吉澤 一洋（エーザイ），間瀬 暢之（静岡大学），原 敦治（和光純薬），岡戸 康太郎（味の素），山下 真之（スペラファーマ），近藤 知明（大日本住友製薬），蓮 芳文（第一三共），榎本 太郎（中外製薬），植村 威士（田辺三菱製薬），山下 陽平（アステラス製薬），大原 孝文（塩野義製薬，記）

オブザーバー：佐治木 弘尚（会長，岐阜薬大），田中 規生（副会長，日産化学）

（順不同，敬称略）

【議題】

1. 新任委員と自己紹介
2. 前回議事確認
3. 第13回（2018年）プロセス化学ラウンジ報告（山下真之委員，スペラファーマ）
4. 第14回（2019年）プロセス化学ラウンジ準備状況（山下陽平委員，アステラス製薬）
5. ウィンターシンポジウム 2018 のアンケート集計・抽選会（アンケート特典：バッジ3名）※※アンケートの集計は間瀬先生が実施くださいました。
6. 国際サマーシンポジウム，ISPC 2019 の口頭発表選考について
7. ウィンターシンポジウム 2019 の午前の部（特別講演），ランチョン開催についての連携
8. その他，将来計画委員会に関する審議事項（10分）

【内容】

1. 新任委員：榎本太郎委員（中外製薬），山下陽平委員（アステラス製薬），植村威士委員（田辺三菱製薬）の3名の新任委員のご紹介を行った。
2. 前回の議事確認：2018年7月25日に開催した前回委員会の議事について確認した。
3. 第13回（2018年）プロセス化学ラウンジ報告（山下真之委員）
 - 2018年11月30日（金）-12月1日（土）に富士フィルム和光純薬湯河原研修所にて開催。時間は昨年同様。金曜10時開始，土曜朝食後解散。合計35名（講師5名，参加者27名，世話人3名）
 - 講演は企業3題，大学2題の計5題。第11回からの継続企画（ショートプレゼン）を実施し，プロセス化学ラウンジの開催趣旨であるざっばらんな情報交換の場の提供を考慮し，参加者相互の情報共有・人的交流が効果的に行なわれた。プロセス化学ラウンジ後に参加者へのアンケートを実施した。
 - ショートプレゼンは8割の方が希望されていたが，中でも演題数を減らしてまでは求めない方も半数おられた。
 - 参加者数は例年より若干少なめであったが，通常のシンポジウムでは聞けない製造技術関係の発表もあり，質疑応答が活発になされたとのことであった。演題数を含めて変化させることも一案である。また，女性参加者や会員枠を非会員にも広げる工夫について議論した。

4. 第 14 回 (2019 年) プロセス化学ラウンジ準備状況 (山下陽平委員)
 - 開催時期として 2019 年 11 月 29 日 (金) ~30 日 (土) を第一候補として調整する。第二候補は 11 月 15 日 (金) ~16 日 (土) とした。場所は、富士フィルム和光純薬湯河原研修所を使用させて頂く。
 - 講演はアカデミアより 1-2 題、企業から 3-4 題を予定。アンケートで講演者・参加者の多様性の意見が見られたため、案として女性研究者の招聘を検討する。
 - 会員枠を広げるために非会員枠を設けることとする。会費は例として 23,000 円 (学生 10,000 円) 等。
 - ショートプレゼン実施の場合、開催方法を検討する (数を絞る、ディスカッションを含めて夕食前に実施等)。
 - 次々回、2020 年度の第 15 回プロセス化学ラウンジの幹事会者はサマーシンポジウム開催時の将来計画委員会で決定する。

5. ウィンターシンポジウム 2018 のアンケート集計・抽選会 (大原委員) : アンケート当選者 (3 名) をくじにより決定した。事務局より当選者に日本プロセス化学会のバッジを送付する。

6. 国際サマーシンポジウム, ISPC 2019 の口頭発表選考について (蓮委員)
 - プログラム委員会より、口頭発表 (発表時間 10 分 : 質問なし) を 1 日目 7 件, 2 日目 7 件の計 14 件とすることが決定されている。ポスター発表の申し込みの際に口頭発表を希望した中から、講演要旨を元に 14 件を選考する。プログラム委員会にてその選考作業を将来計画委員会で実施することに決まった。
 - **選考プロセス : 5/17(金)のアブストラクトメックから 2-3 週間で 14 演題 (目安 : 企業とアカデミックが 10 : 4 位の件数) を選定し, 6/10 までに口頭発表の対象演題を決定する。** チェア-の秋山先生にもご連絡済。

7. ウィンターシンポジウム 2019 の午前の部 (特別講演) , ランチョン開催についての連携 (大原委員)
 - 午前の部の参加者について : 午前の部には企業研究者も参加可能とする。 (学生・ポスドクに限らなくても良い)
 - 公開講演の演者について : プロセス化学の醍醐味や面白さを学生向けに講演やキャッチーな演者を選定するのもあり。基礎的なプロセス化学の内容でも良い。現在、「医薬品のプロセス化学」の第 3 版を改訂中であり、これからの話題として連続晶析やフロー製造などの話題を盛り込むことも考えているとのこと。午前中の演題のトピックとしてもふさわしいのではないかというご意見もあった。
 - ランチョンの対象者 : 学生・ポスドクは優先されるが、企業若手研究員の方で希望される方には参加頂いて良い。
 - ランチョンの進行役 : 将来計画員、理事の方々、午前中の部に参加される企業若手研究員の方々に協力をお願いする。
 - 公開講演の演者選定のための今後のアクション : 各委員で理事にお話しいただき、企業研究員の方々に声掛けいただき、午前中の講演者を募ることとする。

8. 将来計画委員会の活動について（議事）

- 将来計画委員会の今後を見据えて、より広い視点から新たなアイデア創出を期待、例えば、女性で将来計画委員として参画を後押ししてはどうかというご意見が出た。将来計画委員になっていただき、女性研究者の視点でアイデアを出していただくのはどうか。なお、将来計画委員の人数に関しては特に制限を設けなくても良い。
- **まずは各社で声掛けを行っていただき、どの程度、要望があるかを委員で共有することとする。**

【次回委員会予定】

- 2019年7月24日（京都、国際会議場）. ISPC2019の当日、もしくは前日を予定、理事会の日程を考慮の上、開催します。